

今月の例会報告

酪農のDXの最先端をその目で。ファームノートDP視察例会！

農業新技術グループは、11月15日に中標津町にて(株)ファームノートデーリプラットフォームの視察例会を開催しました。同社は「Farmnote Color」などのIoTを活用した牛群管理システムで知られる(株)ファームノートのグループ会社として2020年よりスタート。自社の持つ技術だけでなくフィンランドの設計思想を取り入れることで働く「人」にも「牛」にも配慮された生産性の高い酪農生産に挑戦しています。

また、これまで酪農生産コストの20%を占めてきた牛舎建築コストもリノベーションにより圧縮。固液分離機による糞尿処理で環境負荷への配慮を行い、自動開閉カーテンや分娩前後の牛に配慮した牛舎設計などアニマルウェルフェアにも取り組みます。

それらを実証農場として実際に取組み、牛舎・人・牛それぞれの視点でデータ化と自動化を進めることでさらなる酪農生産のDXを推進。さらには経験の有無を問わずだれでも酪農経営が可能になる世界を目指して日々挑戦を続けています。

「テクノロジーだけで生産性は上がりません」という言葉通り、技術を活用するのはもちろんのこと、活用する人の側がどのように動くのか、そういったリアルな技術を徹底してやりやすくすることで経験の浅い社員でも牛群の管理をしやすく、経験を積みやすい環境を作っています。また、子牛から経産牛まですべての牛が一つの牛舎内にいることで移動のリスクや手間を軽減しています。それを可能にしているのは通常の牛舎より数多く設置されているゲートでの動線づくりでした。ものすごく革新的な新しいロボットや技術がふんだんに使われているというわけではなく、一つ一つの作業とそれに関わる人と牛がどれだけ快適かに重きを置いて既存のテクノロジーとリアルな技術に工夫を重ねており、酪農家だけではなくどんな企業家が見ても自社の見直しに繋がるものになったのではないのでしょうか。



←ロボット搾乳の様子を見学

牧場内には社員さんが自ら作成した牧場を紹介する4枚のボードが立ててあり、同社の経営の目的や想いが書かれていました。社長が指示を出したわけではなく、社員が自発的にこのボードを作成してくれて、想いがよく表されていることに社長自身も感動を覚えたそうです。



←社員さんが自発的に作成したボードを前に話す小林社長

同社HPから視察のお申込みも可能です。ご興味がありましたらご検索してみてください。

農業経営部会今後の予定

段々と冬の到来が感じられる気温となり、十勝での収穫もだんだんと目途が付き始めているところです。農業経営部会も農閑期の到来に合わせてどんどんと活動が加速して参ります。今後の予定は右記のとおりです。

〈今後の例会予定〉

- 11/30 農業会計初級「決算書分析の基礎」
アンビシャスパートナーズ 森下 浩 氏
- 12/16 改正電子帳簿保存法の概要と要対応点
竹川会計事務所 竹川 博之 氏
- 12/20 望年例会 etc…